

旭硝子株式会社 2016 年度第1四半期決算 主な質疑応答

経営企画部広報・IR 室

【全体】

- Q 想定為替レートを対米ドル：120円、対ユーロ：130円で据え置いています、為替の営業利益に対する感応度を教えてください。
- A 当社の事業環境は、円高がプラスになる事業とマイナスになる事業があり、通貨や事業によって影響は異なります。全ての通貨が同じ比率で連動したと仮定した場合に、現時点の事業環境においてはプラスとマイナスが相殺され、為替が営業利益に与える影響はほぼありません。

【ガラス】

- Q 欧州建築用ガラス事業が大幅に回復している要因について教えてください。
- A この第1四半期は欧州の暖冬の影響もあり出荷数量が落ちなかったことと、需給がかなり引き締まっていて、価格が前年同期比で改善していることが主な要因です。

【電子】

- Q 電子セグメントの第1四半期の営業利益の前期比減益要因を教えてください。また、いつ頃回復する見込みでしょうか。
- A 液晶用ガラスはコストダウン等を実現したものの、出荷減少と価格下落の影響を受けました。電子部材は、スマートフォン市場減速の影響を受け、出荷数量が減少しています。また、電子機器用特殊ガラスの出荷数量も減少しています。第2四半期以降は各主要製品の数量が徐々に伸びていきますが、本格的な回復は第3四半期以降と見えています。

【化学品】

- Q インドネシアのクロール・アルカリ事業の増設の生産・販売の状況について教えてください。
- A 新しい設備は、ほぼ予定どおりこの第1四半期に立ち上がっています。第1四半期はフル稼働までは達していないものの、販売先は確保できており、第2四半期以降の出荷数量が増えていく見込みです。

以 上